

中止の声 **最後まで** やまず

感染爆発のなか五輪閉幕

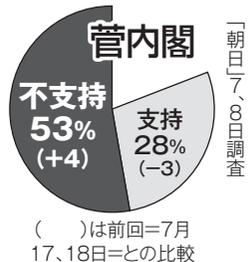
コロナの爆発的感染拡大のさなかの開催となった東京五輪が8日、閉幕しました。期間中、新規感染者は急増し、必要な患者が入院できない状況を引き起こし、「五輪はやめて、命を守れ」の声がやむことはありませんでした。

緊急事態宣言下での五輪

が感染抑止に完全に逆行し、国民の命の危機を加速させたことは疑う余地がありません。感染リスクを高めるとの専門家の警告や中止を求める世論に背を向け、開催に突き進んだ菅政権、東京都、国際オリンピック委員会 (IOC) などの責任は極めて重大です。

「五輪で感染拡大」6割 (JNN)

世論調査では「東京五輪が感染拡大につながった」との回答が多数。内閣支持率は過去最低となり、五輪開催による政権浮揚の思惑が外れる結果となりました。



折り目

比例代表

近畿ブロック(定数28)

2→4議席へ倍増めざします

比例近畿ブロック
名簿登載予定者



- | | | | | | |
|---|---|---|--|--|--|
| こくた恵二
国会対策委員長
(衆院9期)
京都1区重複 | 宮本たけし
前衆議院議員
(衆院4期・参院1期)
大阪5区重複 | 清水ただし
衆議院議員
(2期)
大阪4区重複 | こむら潤
前尼崎市議
(1期)
兵庫8区重複 | たけやま彩子
前長岡京市議
(5期)
京都府常任委員 | 西田さえ子
党大阪府委員会
くらし・営業対策委員長 |
|---|---|---|--|--|--|

制度解説

衆院選挙
投票方法

比例代表は「**日本共産党**」と書きます
小選挙区は「候補者の名前」で

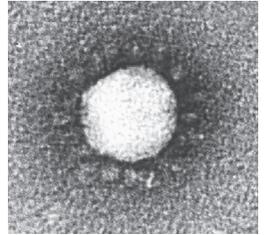
政党名を
書きま
す。個人
名は無効
です。

コロナ「入院制限」

在宅死リスク高める

乱暴で無責任 撤回強く求める

「守れる命が守れなくなる」—菅政権は2日、コロナ患者の入院を制限し、重症患者や重症化のリスク高い患者のほかは自宅療養を基本とするよう方針転換しました。厳しい批判を浴びています。



デルタ株の電子顕微鏡写真 (東京都健康安全研究センター提供)

志位委員長が主張

菅首相は今回の方針決定に当たって専門家にも相談していません。独断の決定は余りにも乱暴。症状が急変しやすい特徴があるコロナ患者の入院に制限をかけることは、治療の遅れにより自宅で死亡する人を続出させかねません。

日本共産党の志位和夫委員長は4日、「乱暴で無責任な方針であり、撤回を強く求める」とのべ、「きちんとした医療提供ができる体制をいかにするか—方針を全面的に見直す

べきだ」主張しました。

早期治療に政策転換を

コロナ患者を受け入れてきた医療機関からは「コロナ医療は早期の治療が極めて重要」との声が上がっています。入院治療を重症者などに「重点化」する政府方針では入院期間が長くなり、かえって病床が逼迫する悪循環に陥ります。軽症のうちに治療する方針への転換が必要です。

日本共産党

近畿民報

2021年8月 No.2(第471号)
発行/日本共産党国会議員団
近畿ブロック事務所

〒537-0025 大阪市東成区中道1-10-10ホクシンビース102号
Tel.06(6975)9111 Fax.06(6975)9115
Eメール:jcpkinki@cronos.ocn.ne.jp

※日本共産党は以上の見解を発表しました。